

### 医療ルネサンス

No.5715

## 化学物質過敏症

1/5

# 香水で頭痛や息苦しさを

四国地方が好天に恵まれた10月末、松山市の道後公園で、近くに住む日野美奈さん(53)は、自分の病氣「化学物質過敏症」について語り始めた。緑豊かな公園を選んだのは、室内に漂うたばこや香水、柔軟剤などのおい物質によって頭痛や息苦しさに襲われてしまうので、これを避けるためだ。

この病氣についての詳しい調査が行われておらず、患者数は不明だが、重症患者を数万人と推定する医師もいる。農薬や有機溶剤にも反応し、においを感じないほど微量でも体調を崩す患者が目立つ。

うつ状態などの精神症状を合併する例もあり、この病氣に詳しい医師たちは、化学物質過敏症によって精神症状が生じると指摘している。

だが、精神疾患が原因で化学物質を過度に恐れている。

と誤解されたり「気のせい」と軽くみられたりする患者が多く、家族の理解も得られずに孤立する。精神科で薬を長期間処方され、症状が悪化する人もいる。「道後公園は安心して利用でき、待ち合わせによく使います。公園のホームページに農薬の散布予定が載っているためです」と日野さん。事前告知は、同公園の管理会社が日野さんらの要望で1年ほど前に始め、

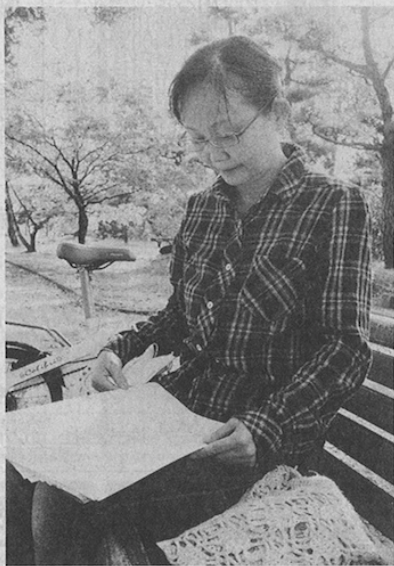
約2か月先までの日程と散布場所、薬の種類を載せている。公園は広く、こうした情報が事前に分かれれば、患者は散布地点から離れた場所を選んで利用できる。日野さんの体調不良は12年ほど前に起こった。営んでいた衣料品店でダニなどの駆除を目的に、有機リン系殺虫剤を月に1度、散布し始めたことがきっかけだった。換気の悪い店内に揮発した成分が広がり、目の

奥の痛みや筋肉痛、吐き気、だるさに襲われた。散布は8か月でやめたが、香水や接着剤などでも体調不良が起こるようになった。これらの人工的なにおい物質を吸い込むと、鼻の粘膜が焼け付くように痛み、激しい頭痛やめまい、息苦しさが生じた。東京の大病院で、化学物質過敏症と診断された。

店を閉じ、外出を控え、10年ほど無農薬の食品摂取を続けるうちに体調が上向いた。最近では、家の周囲を毎日散歩して体調維持に努めている。「私は家族の協力のおかげで回復に向かいましたが、患者の多くは周囲の無理解に苦しんでいます」と日野さんは話す。

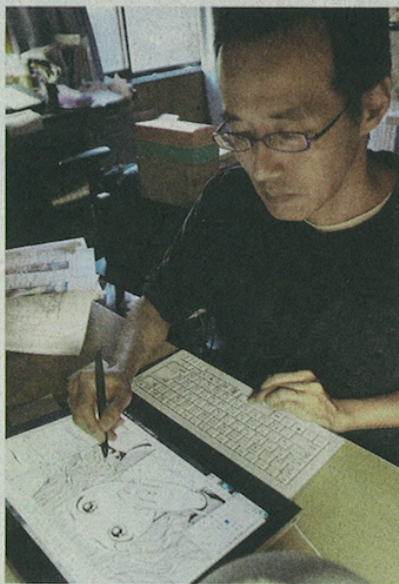
今夏、環境省が女性向けクールビズで香り付き柔軟剤などの使用を推奨し、患者らの訴えで撤回した騒動は、この病氣に対する国の無理解を露呈させた。多様な症状と支援不足に苦しむ患者の窮状を報告する。

化学物質過敏症になった経緯を振り返る日野さん(松山市の道後公園で)



## くらし 家庭

(このシリーズは全5回)



妻が重症化した場面を漫画で描くあきやまひできさん(兵庫県内)

## 妻の闘病漫画で紹介

は2010年秋のことだった。嗅覚が突然過敏になり、書店に入ると「出版社ごとにインクの違いが分かるほどだった」と言う。スーパーでは、添加物などの影響

も発症した。日光に肌をさらすと、すぐに赤く腫れ上がるようになり、昼は外出できなくなった。携帯電話などの電磁波を発する機器の近くでも、体調不良が起ころうになった。アレルギ科を持つ病院などが参加し、進行中の患者調査では、化学物質過敏症患者の5割が、電磁波でも体調を崩すと訴えている。

今年2月、小学館の漫画雑誌「ビッグコミックスペリオール」で、漫画家のあきやまひできさん(50)が連載を開始した。タイトル

は「かびんのつま」。化学物質過敏症や光線過敏症など、複数の過敏症に苦しむ妻、かおりさんの実体験を詳しく描いている。

たケーキやお菓子が大好物で、嗜好品だけで食事を済ますことが多かった。12年前にあきやまさんと出会い、結婚した。この頃は異変は表れていなかった

が、やがてケーキやお菓子の味が変わったように感じ、食べると頭痛や腹痛、吐き気などが起こるようになった。よく通っていた有名店のラーメンも、化学調味料の味ばかり感じるようになり、食べられなくなった。

だが、間もなくすると、様々なにおいがかおりさんに牙をむき始めた。身の回りにあふれる化学的なにおい物質に反応し、息苦しさや頭痛などが起こるようになったのだ。東京の医療機関を受診し、化学物質過敏症と診断された。

かおりさんは病気を発症するまで、東京で化学物質に囲まれた生活を送っていた。食品会社の研究員だった時は、食品添加物を日々扱っていた。大量生産され

たケイキやお菓子が大好物で、嗜好品だけで食事を済ますことが多かった。12年前にあきやまさんと出会い、結婚した。この頃は異変は表れていなかった

が、間もなくすると、様々なにおいがかおりさんに牙をむき始めた。身の回りにあふれる化学的なにおい物質に反応し、息苦しさや頭痛などが起こるようになったのだ。東京の医療機関を受診し、化学物質過敏症と診断された。

かおりさんは病気を発症するまで、東京で化学物質に囲まれた生活を送っていた。食品会社の研究員だった時は、食品添加物を日々扱っていた。大量生産され

たケイキやお菓子が大好物で、嗜好品だけで食事を済ますことが多かった。12年前にあきやまさんと出会い、結婚した。この頃は異変は表れていなかった

が、間もなくすると、様々なにおいがかおりさんに牙をむき始めた。身の回りにあふれる化学的なにおい物質に反応し、息苦しさや頭痛などが起こるようになったのだ。東京の医療機関を受診し、化学物質過敏症と診断された。

かおりさんは別の過敏症

## くらし 家庭